

OISDE ラオス事業報告 第四回

こんにちは。**OISDE** ラオス事務所長の持田です。事業報告の第四弾となります。

前回の報告で、改装工事のために施設の一部を壊し始めたことをお伝えしましたが、日本人の建築家もおっしゃっていましたが、壊すのはとても早いペースで進みます。1階の部屋を拡張して実習室を作るために、写真左の通り、部屋の壁を撤去しました。取り壊し自体は2週間弱で完了しました。あっけないものです。

ラオスではよく見られる光景なのですが、建設現場に労働者が寝泊りします（写真右）。日の出と共に働き始めるので現場に寝泊りするのが良いそうなのですが、現場に置いてある資材が盗まれないようにする意味合いもあるそうです。電気式鍋も持ち込んで、現場で自炊しています。よく寝られるものだと感心しますが、当人はなんら気にしていません。当然のような顔をして、生活しています。もちろん、大学側の許可は得ています。



1階の壁を撤去



労働者は現場で寝泊り